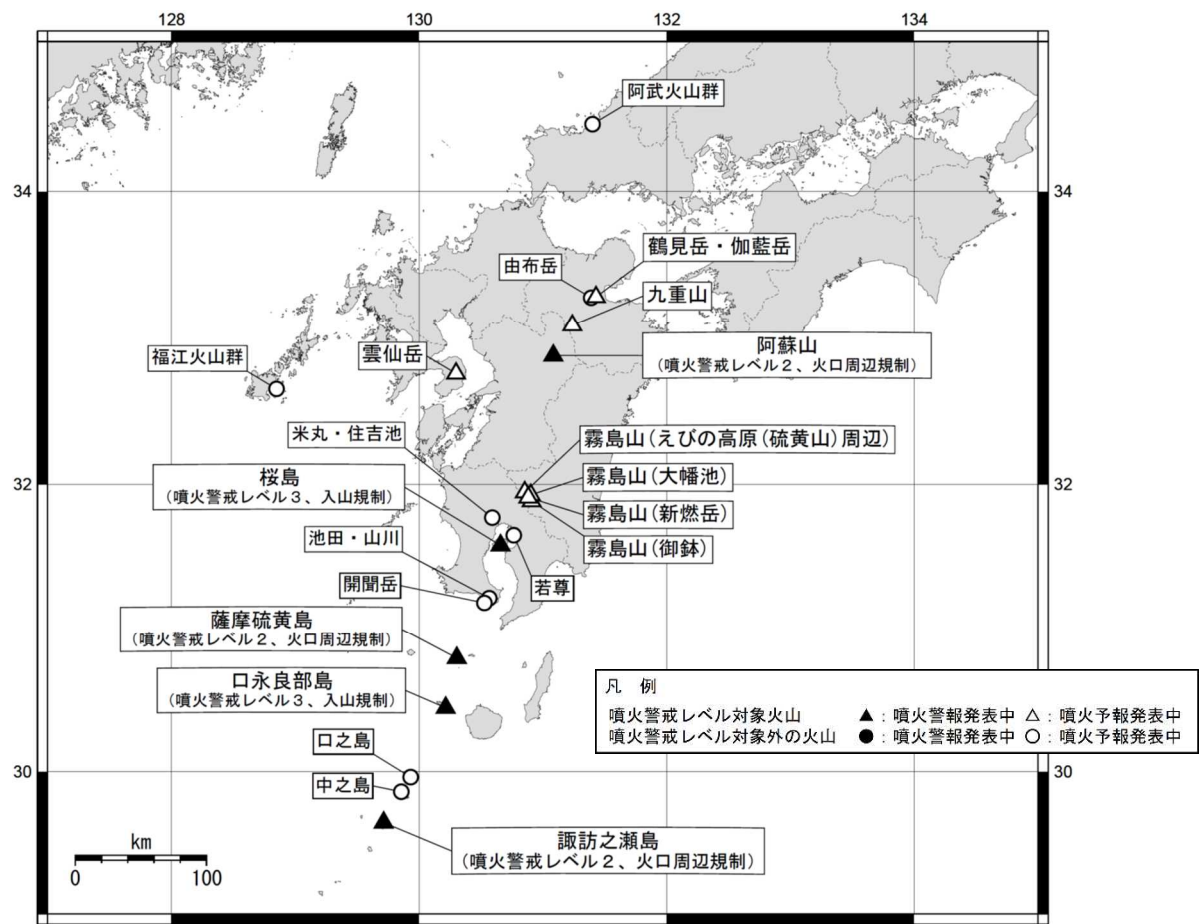


管内月間火山概況（令和3年5月）

福岡管区気象台
地域火山監視・警報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（令和3年5月31日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル3（入山規制）	桜島、口永良部島
	レベル2（火口周辺規制）	阿蘇山、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
噴火予報	レベル1（活火山であることに留意）	鶴見岳・伽藍岳、九重山、雲仙岳、霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）、霧島山（大幡池）、霧島山（新燃岳）、霧島山（御鉢）
	活火山であることに留意	あぶ阿武火山群、由布岳、福江火山群、よねまる米丸・住吉池、わかみこ若尊、池田・山川、かいもん開聞岳、口之島、中之島



噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用されています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_vact_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況（令和3年6月分）は令和3年7月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、九州地方整備局、国土地理院、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、大分県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、屋久島町、三島村、十島村及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

各火山の活動状況及び予報警報事項

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりです。

阿蘇山では、2日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げました。

つるみだけ がらんだけ

鶴見岳・伽藍岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

くじゅうさん

九重山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山性地震は少ない状態であり、噴気地帯の状況にも特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。長期的には、硫黄山付近の噴気地帯地下の温度上昇を示す全磁力の変化がみられており、わずかに火山活動が高まっている可能性があります。今後の火山活動に留意してください。

あそさん

阿蘇山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕 ←2日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げ

阿蘇山では、5月2日に火山性微動の振幅が増大したため、同日22時55分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げました。

火山性微動の振幅が2日から9日にかけて大きくなりましたが、10日以降、次第に小さくなり、18日以降は小さな状態となっていますが、時々変動がみられました。

火山ガス（二酸化硫黄）放出量、火口内の状況、及びGNSS連続観測では、火山活動の高まりを示す変化はみられていません。

火山性微動の振幅に時々変動がみられることから、中岳第一火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

うんぜんだけ

雲仙岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はありませんが、2010年頃から普賢岳から平成新山直下の深さ1～2kmを震源とする火山性地震が時々発生していますので、今後の火山活動に留意してください。

きりしまやま

こうげん

いおうやま

しゅうへん

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

硫黄山では、活発な噴気活動が続いています。火山性地震は2020年5月以降わずかに増加した状態が続いていますが、さらなる増加は認められず、概ね少ない状態で経過しています。また、GNSS連続観測では、同時期から山体浅部の膨張を示すわずかな伸びが認められていましたが、2021年2月以降は停滞しています。

硫黄山では噴火の兆候は認められませんが、現在活発な噴気活動がみられている硫黄山の西側500mの噴気地帯から概ね100mの範囲、及び硫黄山火口内では、熱水・熱泥等が飛散する可能性がありますので注意してください。また、火山ガスにも注意が必要です。地元自治体等が行う立ち入り規制に従うとともに、火口周辺や噴気孔の近くには留まらないでください。

きりしまやま

おおはたいけ

霧島山（大幡池）〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

活火山であることから、規模の小さな噴出現象が突発的に発生する可能性がありますので、留意してください。

きりしまやま しんもえだけ
霧島山（新燃岳）〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

新燃岳では、噴火の兆候は認められません。火口直下を震源とする火山性地震は、2月以降は少ない状態で経過しています。地熱域、噴気活動、火山ガスの放出量には、特段の変化は見られていません。また、GNSS 連続観測では、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる基線の伸びは認められません。

活火山であることから、新燃岳火口内、火口縁及び西側斜面の割れ目付近では、火山灰の噴出や火山ガス等に注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

きりしまやま おはち
霧島山（御鉢）〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

活火山であることから、火口内でごく少量の火山灰等を噴出する規模の小さな現象が突発的に発生する可能性がありますので注意してください。

地元自治体等が行う立入規制等に留意してください。

さくらじま
桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）〕

南岳山頂火口では、5月に入り噴火活動が低下しました。弾道を描いて飛散する大きな噴石は最大で6合目（南岳山頂火口より800mから1,100m）まで達しました。また、噴煙は最高で火口縁上2,500mまで上がり、雲に入りました。

広域のGNSS 連続観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部で長期にわたり供給されたマグマが蓄積した状態が継続しており、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が概ね多い状態が続いていることから、南岳山頂火口を中心に、噴火活動が再び活発化する可能性があります。

南岳山頂火口及び昭和火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。なお、今後の降灰状況次第では、降雨時に土石流が発生する可能性がありますので留意してください。

さつまいおうじま
薩摩硫黄島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

火山性地震や火山性微動の発生状況に特段の変化はありません。火山ガス（二酸化硫黄）放出量は1日あたり1,000トン前後の状態が継続しており、時折噴煙が高くなるほか、夜間に火映を観測しています。長期的には熱活動が高まった状態が続いていることから、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性があります。

火口から概ね0.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスにも注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

くちのえらぶじま
口永良部島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）〕

口永良部島では、火山性地震は増減を繰り返しながら次第に減少しています。長期的には火山性地震は多い状態ですが、火山活動は次第に低下しつつあります。

新岳火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

すわのせじま
諏訪之瀬島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）〕

御岳（おたけ）火口では、活発な噴火活動が継続しています。

諏訪之瀬島では長期的に噴火を繰り返しており、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されます。

火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

上記以外の火山の活動状況に変化はなく、予報事項に変更はありません。